



766831-7-933



お客さま用

一般財団法人 日本ガス機器検査協会検査合格品
住宅用火災警報器 検定合格品

品 名
(形式名)

YK-210B

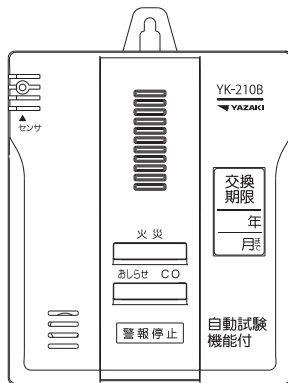
(家庭用)
住宅用火災・CO警報器
壁面設置専用
連動型・自動試験機能付
取扱説明書

本品をご採用いただきありがとうございます。

本警報器は火災時の煙だけでなく、CO検知機能の搭載によりガスなどの不完全燃焼で発生するCOでも発報します。

- お使いになる前に、この取扱説明書をぜひお読みください。
- 取扱説明書は、取付け後も保証書とともにお手元に保管し、いつでも使用できるようにしておいてください。
- 取扱説明書を紛失された場合は、販売店またはガス小売事業者にお問合せください。
- この警報器は、火災、不完全燃焼を未然に防ぐ装置ではありません。火災、不完全燃焼による損害については責任を負いかねます。

この取扱説明書では本品を「警報器」、一酸化炭素を「CO」と表記しています。



も く じ

■警報器をご使用になる皆さま及び施工される方へ 頁

■ 1. 危険・警告・注意・表示などの基準	1
■ 2. 対象ガス及び仕様	2
■ 3. 各部の名称と働き	3

■ご使用になる皆さまへ

■ 4. 主な特長	5
■ 5. ご使用上の注意	7
■ 6. 定期点検	10
■ 7. ランプと音声	11

■ 8. 「ピーポー ピーポー 火事です 火事です」 と警報している場合の処置 (赤(火災警報)ランプ点滅)	12
---	----

■ 9. 「ピッポッピッポッ 一酸化炭素を検知しま した 危険です 危険です」 と発報している場合の処置 (黄(CO注意報)ランプ点滅)	13
---	----

■ 10. 「ピーポーピーポー 別の火災警報 器が作動しました 確認してください」 と警報している場合の処置 (赤(火災警報)ランプ点滅)	15
--	----

■ 11. 緑(おしらせ)ランプが点滅している場合の 処置	16
----------------------------------	----

■ 12. 警報器を取付けている部屋等で噴霧式殺虫 剤を使用される時のお願い	17
---	----

■ 13. 警報器のお手入れ方法	20
------------------	----

■ 14. 警報器の取外し・取付け方法	21
---------------------	----

■ 15. アフターサービス	22
----------------	----

■ 16. 廃棄について	23
--------------	----

■施工される方へ

■ 17. 施工される方へのお願い	24
-------------------	----

■ 18. 取付け前の確認	25
---------------	----

■ 19. 取付位置の確認	26
---------------	----

■ 20. 取付方法	29
------------	----

■ 21. 取付け後の点検 (お客さま立会いのもと実施)	33
------------------------------	----

■ 22. お客さまへのご説明内容	41
-------------------	----

■ 23. お客さまへの周知事項	41
------------------	----

■警報器をご使用になる皆さま及び施工される方へ

■ 1.危険・警告・注意・表示などの基準

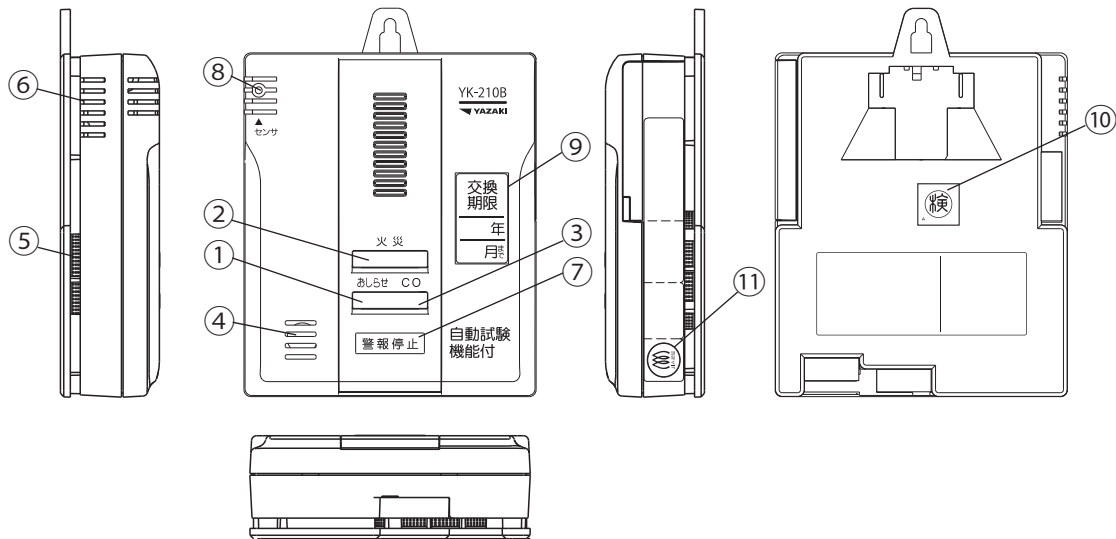
警報器を正しくお使いいただくためや、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、この取扱説明書にはいろいろな絵表示をしており、その表示と意味は次のとおりです。本文をお読みになる前にご確認ください。

 危険	この表示を無視して誤った取扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じる場合が想定されることを表しています。
 警告	この表示を無視して誤った取扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合を表しています。
 注意	この表示を無視して誤った取扱いをすると、使用者が傷害を負う可能性が想定される場合及び物的損害のみの発生が想定される場合を表しています。
	一般的な禁止
	分解禁止
	必ず行う

■ 2. 対象ガス及び仕様

項 目		仕 様
火災警報機能	検 知 原 理	煙感知方式(光電式)
	煙 検 知 性 能	2種
	火災連動入出力	監視時 DC30V以下
		警報時 DC1.2V以下@100mA
	警 報 方 式	赤(火災警報)ランプ1秒毎に2回点滅 音声合成音(自動復帰式)
CO注意報機能	対 象 ガ ス	不完全燃焼排気ガス中のCO
	注意報ガス濃度	CO濃度 25~200ppm
	公称作動濃度	CO濃度 100ppm
	検 知 原 理	電気化学式
	注 意 報 方 式	黄(CO注意報)ランプ1秒毎に1回点滅 音声合成音(自動復帰式)
共通仕様	応 答 時 間	5分以内
	付 属 回 路	通電初期警報防止用約30秒間タイマー付, 自動初期点検機能付
	音 量	70dB/m以上(故障音は60dB/m以上)
	電 源	DC3V(リチウム電池)
	電 池 寿 命	通常の使用状態において約10年 在庫条件及び発報頻度によっては短くなることがあります
	使用温度範囲	0℃~+40℃(結露しないこと)
	寸 法・質 量	100×85×30mm 約160g
	付 属 品	取扱説明書 1部、保証書 1部、3.1ミリ木ネジ L=16(1本)、引きひも アタッチメント(1個、ピン3本付)
	ケ ー ス 材 質	PC樹脂(自己消火性) ABS樹脂(自己消火性)

■ 3.各部の名称と働き



① 緑(おしらせ)ランプ

- ・ 電池切れや故障のときに緑(おしらせ)ランプが点滅します。
- ※点滅時は16ページを参照ください。

②赤(火災警報)ランプ

- ・火災による煙濃度が規定値以上になると赤(火災警報)ランプが1秒毎に2回点滅します。
※点滅時は12ページを参照ください。
- ・連動機器から火災連動信号が入力されると赤(火災警報)ランプが1秒毎に2回点滅します。
※点滅時は15ページを参照ください。

③黄(CO注意報)ランプ

- ・CO濃度が規定値以上になると、黄(CO注意報)ランプが1秒毎に1回点滅します。
※点滅時は13、14ページを参照ください。

④警報スピーカー

- ・火災警報時には「ピーポォー ピーポォー 火事です 火事です」と警報します。
※詳細は12ページを参照ください。
- ・CO注意報時には「ビッポッビッポッ ー酸化炭素を検知しました 危険です 危険です」と発報します。
※詳細は13、14ページを参照ください。
- ・火災とCOの複合警報時には「ピーポォー ピーポォー 火事です 火事です」と警報します。
※詳細は12ページを参照ください。
- ・連動機器から火災連動信号が入力されると「ピーポォー ピーポォー 別の火災警報器が作動しました 確認してください」と警報します。
※詳細は15ページを参照ください。

⑤火災検知部(煙感知)

⑥ガス検知部(CO感知)

⑦警報停止スイッチ

- ・スイッチを押すことにより、点検や警報停止ができます。
付属の引きひもを取付けると、引きひもを引くことにより、点検や警報停止ができます。
※詳細は6,8,10,11,12,15,16,35,37,38,40ページを参照ください。

⑧ガス検知部点検口

- ・CO作動点検時にガス採取器によりガスライターまたはガスコンロから採取したガスを注入します。

⑨交換期限シール

⑩検定合格証票

- ・住宅用防災警報器の検定に合格したことを示します。

⑪検査合格証

- ・日本ガス機器検査協会の検査に合格したことを示します。

■ご使用になる皆さまへ

■ 4.主な特長

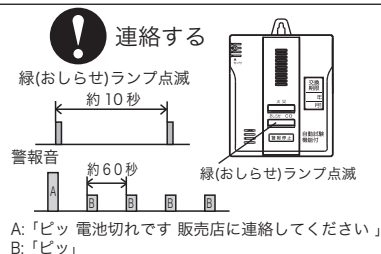
火災警報機能	
●火災による煙が発生した場合 警報器周囲の煙濃度が規定値以上になると、右のように作動します。	赤(火災警報)ランプが1秒毎に2回点滅と火災警報音 「ピーポーピーポー 火事です 火事です」 
●火災による煙と同時にCOが発生した場合	赤(火災警報)ランプ及び黄(CO注意報)ランプ点滅と警報音 「ピーポーピーポー 火事です 火事です」 
●別の部屋に設置された住宅用火災警報器と接続して相互連動することもできます。 接続する場合は販売店にご相談ください。	
CO注意報機能	
●COが発生した場合 警報器周囲のCO濃度が規定値以上になると、注意報を発します。	黄(CO注意報)ランプが1秒毎に1回点滅とCO注意報音 「ピッポッピッポッ 一酸化炭素を検知しました 危険です」 

ご使用になる皆さまへ

お知らせ機能

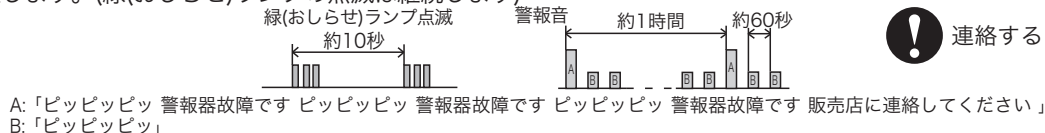
●電池が切れた場合

- 電池の電圧が低下すると、緑(おしらせ)ランプが約10秒に1回の点滅を開始し、同時に「ピッ 電池切れです 販売店に連絡してください」と1回鳴ります。その後は緑(おしらせ)ランプの約10秒に1回の点滅は継続したまま、約60秒に1回「ピッ」と鳴ります。※
 - 警報停止スイッチを操作すると、「ピッ 電池切れです 販売店に連絡してください」と鳴り、おしらせ音は停止します。(緑(おしらせ)ランプの点滅は継続します)
- おしらせ音停止中に警報停止スイッチを操作すると「ピッ 電池切れです 販売店に連絡してください」と1回鳴ります。



●故障した場合

- 故障していると、緑(おしらせ)ランプが約10秒毎に3回点滅し、約60秒毎に「ピッピッピッ」を1回、1時間毎に「ピッピッピッ 警報器故障です ピッピッピッ 警報器故障です ピッピッピッ 警報器故障です 販売店に連絡してください」とおしらせします。※
- 警報停止スイッチを操作すると、「ピッピッピッ 警報器故障です 販売店に連絡してください」と鳴り、故障音は停止します。(緑(おしらせ)ランプの点滅は継続します)



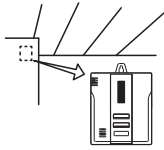
※おしらせ音は夜間でも出ますのでご了承ください。緑(おしらせ)ランプが点滅したら早めに販売店またはガス小売事業者までご連絡ください。
警報スピーカー故障の場合、故障音は鳴りません。

●交換期限が過ぎた場合

- 本機には交換期限切れをお知らせする機能があります。期限切れの場合、警報停止スイッチを操作すると、「ピッ 交換期限を 過ぎています 販売店に連絡してください」とお知らせします。販売店またはガス小売事業者までご連絡ください。

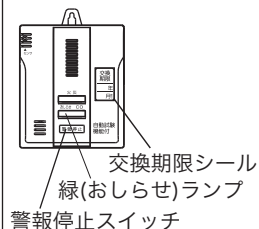


■ 5.ご使用上の注意

 警告	
●警報器は絶対に分解や改造をしないでください。 また、警報器を落下させたり衝撃を与えるような取扱いはしないでください。故障の原因となります。	 分解禁止 
●ガス検知部は絶対にふさがないようにください。COを検知しなくなります。	 禁止 
 注意	
●警報器は取付位置を移動させないでください。また、警報器の前に物を置いたり、取付けたりしないでください。警報の遅れの原因となります。 警報器の位置を変える必要が生じた場合は、販売店に依頼してください。 ●本機には故障診断回路が搭載されており、故障を感知すると緑(おしらせ)ランプが10秒毎に3回点滅します。(16ページ参照) 緑(おしらせ)ランプが10秒毎に3回点滅している場合は、販売店またはガス小売事業者までご連絡ください。 ●警報器の交換期限を過ぎていないか、確認してください。警報器本体に交換期限シールが貼ってあります。交換期限はお取付けの10年後です。 期限を過ぎたものは規定のガス濃度で警報しないなど誤作動の恐れがあります。	 移動禁止   確かめる

⚠ 注意

- 本機には交換期限切れをお知らせする機能があります。期限切れの場合、警報停止スイッチ(または引きひも)を操作すると「ピッ 交換期限を過ぎています 販売店に連絡してください」とお知らせします。販売店またはガス小売事業者までご連絡ください。
- 警報器を取付けていない部屋は、火災及び不完全燃焼の監視はできません。この警報器は、お取付けいただいた場所近くで発生した煙やCOにはランプと音声で発報しますが、他の部屋などで発生した煙やCOでは発報しないことがあります。
- この警報器は、火災または不完全燃焼を未然に防ぐ装置ではありません。火災または不完全燃焼などによる損害については責任を負いかねます。
- 浴室、屋外では使用できません。
- 警報器の近くでラジオなどを使用されると、ノイズ(雑音)が増える場合があります。この場合は、警報器から少し距離を離してご使用ください。
- 電池切れをそのままにしておきますと、正常に機能しないばかりでなく、電池が液漏れする恐れもあります。電池電圧が低下した場合、必ず販売店またはガス小売事業者にご連絡ください。
- お客さまがご自身で電池交換せずに、必ず販売店またはガス小売事業者にご連絡ください。



火災・不完全燃焼(CO)以外で発報する場合

お願い

火災の煙や不完全燃焼のCOがなくても、次のような場合に発報することがありますが、しばらくすると発報は止まりますので警報器の電池を外したりしないでください。

- スプレー式殺虫剤、ヘアスプレーなどが直接警報器にかかった場合。
- 濃厚なたばこの煙を警報器に吹きかけた場合。
- 溶剤、シンナー、ベンジンなどを大量に使用した場合。
- また、アルコール類やくん煙式の殺虫剤が高濃度になった場合。
- 石油ストーブを点火した場合や、長時間換気せずに使用した場合。
- 線香の濃い煙がかかった場合。
- 長時間部屋が閉め切られていた場合。
- 焼き魚の煙等がかかった場合。
- 調理中の煙や水蒸気などが警報器にかかった場合。
- 加湿器の水蒸気がかかった場合。

※長い間、閉め切られていたお部屋に設置されている場合、建材などから発生する成分等の作用により発報しやすくなることがあります。

以下の場合、火災の煙やCOで発報しており誤報ではありません。

- 湯沸器を使用中、換気が十分でなかった場合。
- 自動車の排気ガスが室内にこもった場合。
- 炭火や練炭を使用した場合。

下記の処置をすることにより発報は止まりますので警報器は取外さないでください。

このような場合は、ドアや窓を開けてしばらく換気続けると発報は止まります。
ドアや窓を開けて換気してください。



開ける



ご使用になる皆さまへ

6.定期点検

警報停止スイッチによる点検

①日常点検

日常、警報器の緑(おしらせ)ランプが点滅していないことを確認してください。

本機は故障診断回路が働いており、緑(おしらせ)ランプが下記の動作をしている場合は、警報器の故障が考えられますので販売店またはガス小売事業者までご連絡ください。

ー緑(おしらせ)ランプのつき方ー

10秒毎に3回点滅	センサ等の故障
10秒毎に1回点滅	電池電圧低下

②定期点検

- 定期的に(1ヶ月に1度)警報停止スイッチ(または引きひも)を操作して、「ピッ」と鳴ってから手を離して確認してください。

通常の場合・・・全ランプ点灯→「正常です」と鳴ります。

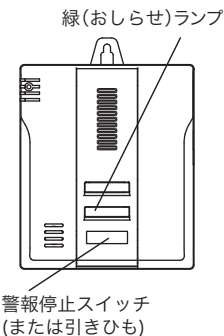
過去10日間に発報があった場合・・・全ランプ点灯→最後に作動したランプが1秒間点灯します。

また、1週間以上留守にされたときも同様の点検をしてください。

③音声確認・連動確認

- 警報停止スイッチ(または引きひも)を3秒以上操作し「ピッピッ」と鳴ってから手を離すと音声を確認できます。この時、他の住宅用火災警報器と接続している場合は、連動先の警報器からも音声を発します。

- 定期点検は月に1度実施してください。



⚠️ 注意

- 点検時に踏み台を使う場合は、転倒してけがをする恐れがあります。必ず安定した台に乗って行ってください。

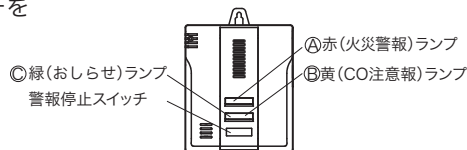
7. ランプと音声

発報動作一覧

ランプの記号☆は、点滅を示します。

発報状態		ランプ			音 声	警報停止 スイッチによる 音声の停止	頁
		A	B	C			
単一検知	火災警報	☆ 1秒毎2回			ピーポーピーポー 火事です 火事です	可	12
	CO注意報		☆ 1秒毎1回		ピッポッピッポッ 一酸化炭素を検知しました 危険です 危険です	不可	13
連動時	火災連動警報	☆ 1秒毎2回			ピーポーピーポー 別の火災警報器が 作動しました 確認してください	可	15
	CO注意報と 火災連動警報	☆ 1秒毎2回	☆ 1秒毎1回		ピーポーピーポー 別の火災警報器が作動しました 確認してください / ピッポッピッポッ 一酸化炭素を検知 しました 危険です 危険です(交互)	火災警報 音のみ可	15
異常	センサ等故障			☆ 10秒毎3回	ピッピッピッ (1分毎) ピッピッピッ 警報器故障です ピッピッピッ 警報器故障です ピッピッピッ 警報器故障です 販売店に連絡してください ※警報スピーカー故障の場合、音声は鳴りません。	可	16
	電池電圧低下			☆ 10秒毎1回	ピッ (1分毎)	可	16

- ・火災警報時及び火災連動警報時は、警報停止スイッチを操作すると約5分間音声の停止ができます。
 - ・ランプはそれぞれ独立して点滅します。
 - ・火災とCOを同時に検知した場合の音声は火災のみを検知した場合と同じです。
 - ・異常時は緑（おしらせ）ランプが点滅します。
- 詳細は16ページを参照ください。



ご使用になる皆さまへ

8. 「ピーポーピーポー 火事です 火事です」と警報している場合の処置(赤(火災警報)ランプ点滅)

- 「ピーポー ピーポー 火事です 火事です」と警報し、赤(火災警報)ランプが1秒毎に2回点滅している場合、火災警報を意味しています。

● 次の処置をしてください。

1. 火元を確認してください。



確認する



2. 必要な消火手段をとってください。



連絡する
消火する

- 119番への通報
- 初期消火



⚠ 危険



避難する

- 消火が不可能なときは、避難してください。



- ・警報停止スイッチを操作すれば、約5分間警報音が停止します。(赤(火災警報)ランプは点滅を維持します) 約5分間経過してもまだ煙があると再び警報します。
- ・火災警報と同時にCO注意報が発生した場合、音声は火災警報が優先されるため、CO注意報音は発しません。黄(CO注意報)ランプが点滅しているときは13ページの処置をしてください。
なお、火災警報とCO注意報が同時に発生した場合は、音声を停止できません。
- ・警報器周囲の煙濃度が規定値以下になった場合、音声は鳴りやみ、赤(火災警報)ランプは消灯します。

■ 9. 「ピッポッピッポッ 一酸化炭素を検知しました 危険です 危険です」と警報している場合の処置(黄(CO注意報)ランプ点滅)

- 「ピッポッピッポッ 一酸化炭素を検知しました 危険です 危険です」と発報し、黄(CO注意報)ランプが1秒毎に1回点滅している場合、CO注意報を意味しています。

部屋にいた場合で、発報したとき



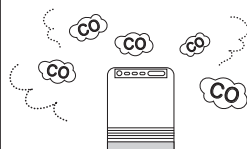
- 発報していた場合、すぐに換気をし、使用中のガス機器がある場合は止めてください。
- 換気をしないと、CO濃度が上昇し短時間で生命が危険な状態になる恐れがあります。

● 次の処置をしてください。

1. ドアや窓を開けて換気してください。



2. 発生元の確認をしてください。



3. 発報が停止しなければ販売店またはガス小売事業者または一般ガス導管事業者へご連絡ください。



- たびたび発報する場合は、ガス機器の点検を受けてください。
ガス機器以外の燃焼機器が原因で発報する場合がありますのでこれらの機器も点検を受けてください。

・ 黄(CO注意報)ランプが点滅している場合は、警報停止スイッチを押しても注意報は停止しません。

部屋にいなかった場合で、室内で発報しているのに気づいたとき

⚠危険

●CO濃度が濃くなっている場合が考えられますので、すぐには部屋に入らず、外からドアや窓を開ける、メーターガス栓を閉めるなどし、発報が停止してから部屋に入り、ガス栓、器具栓を閉めるなどの処置をしてください。



すぐの入室禁止



●次の処置をしてください。

1.部屋に入らずに、室外からドアや窓を開けられる場合は、開け放して換気してください。



外から開ける

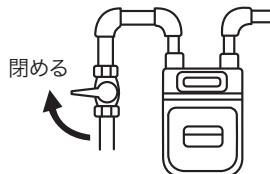


2.ガスメーター近くのメーターガス栓を閉めてください。



閉める

ガスメーター



3.発報が停止してから部屋に入り、ガス栓、器具栓を閉めるなどの処置をしてください。



閉める



10.「ピーポーピーポー 別の火災警報器が作動しました 確認してください」と警報している場合の処置(赤(火災警報)ランプ点滅)

- 「ピーポー ピーポー 別の火災警報器が作動しました 確認してください」と警報し、赤(火災警報)ランプが1秒毎に2回点滅している場合、連動している別の警報器が火災を感知しています。

● 次の処置をしてください。

1.火元を確認してください。



確認する



2.必要な消火手段をとってください。



連絡する
消火する

- 119番への通報
- 初期消火



⚠ 危険



避難する

- 消火が不可能なときは、避難してください。



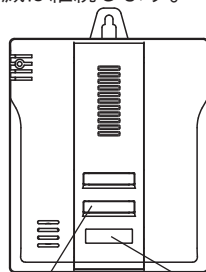
ご使用になる皆さまへ

- ・ 警報停止スイッチを操作すれば、約5分間警報音が停止します。(赤(火災警報)ランプは点滅を維持します) 警報器周囲の煙濃度が規定値以上になると、警報停止を解除し即時に火災警報します。
- ・ また、約5分間経過してもまだ連動元警報器が警報していると再び警報します。
- ・ CO注意報と同時に連動火災警報が発生した場合は、それぞれの音声交互にです。
- ・ このとき、警報停止スイッチを操作すると、連動火災警報音のみを停止できます。
- ・ 連動元警報器が警報を停止すれば、音声鳴りやみ赤(火災警報)ランプが消灯します。

11. 緑(おしらせ)ランプが点滅している場合の処置

- 緑(おしらせ)ランプが点滅している場合、警報器の故障(火災検知部、ガス検知部や警報スピーカーなどの故障)や電池切れが考えられます。早めに販売店またはガス小売事業者までご連絡ください。

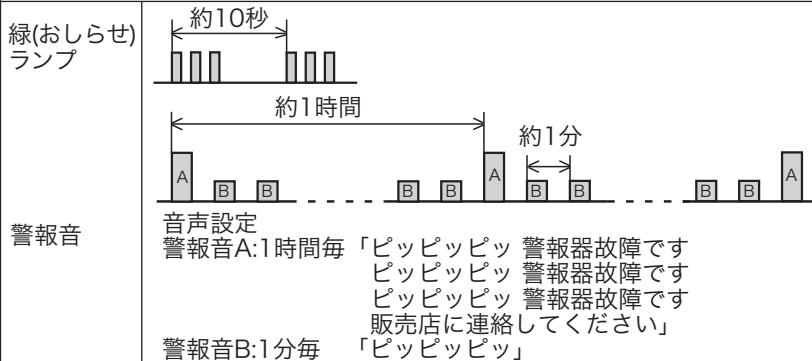
〈警報音を停止したい場合〉
警報停止スイッチを約1秒間押してください。
警報が停止します。
(再鳴動しません)
※緑(おしらせ)ランプの点滅は継続します。



警報停止スイッチ

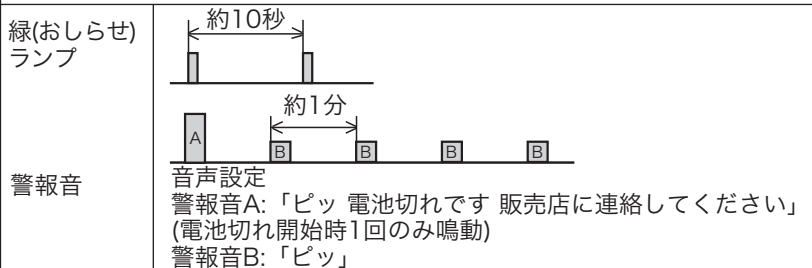
緑(おしらせ)ランプ点滅

●ガスセンサなどの故障



※警報スピーカー故障の場合、警報音は鳴りません。

●電池切れおしらせ

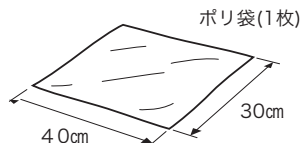


■ 12. 警報器を取付けている部屋等で噴霧式殺虫剤を使用される時のお願い

- 警報器が噴霧式殺虫剤の噴射ガスに反応して発報する場合があります。
次の処置を行っていただくと、警報器の作動を防ぐのに効果があります。

1. 警報器を取外す場合

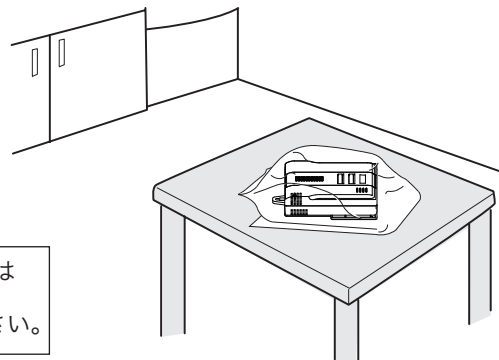
用意していただくもの



ポリ袋

- ・ポリプロピレン( または)PP<表示>が好ましいですが、ポリエチレンでも一定の効果があります。
- ・大きさは、30cm×40cm程度が適当です。

- ① 警報器を取外し、安定するところに置いてください。
※取外し方法は21ページを参照ください。
- ② 警報器をポリ袋に入れ、ポリ袋内に噴射ガスが入るのを防ぐため、密閉できるようにポリ袋の開口部分を折り曲げてください。
- ③ ポリ袋を傷めないように、煙がかからなく安定するところに置いてください。



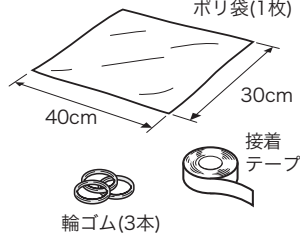
 **警告**

- 噴霧が終わり、換気した後、警報器は必ず元の位置に取付けてください。
※取付け方法は21ページを参照ください。

ご使用になる皆さまへ

2. 警報器を取外さない場合

用意していただくもの
ポリ袋(1枚)



- ①ポリ袋を前面から覆い被せてください。
- ②ポリ袋と壁の隙間から噴射ガスが入るのを防ぐため、ポリ袋を輪ゴムで止め、さらにポリ袋の端を接着テープで壁面に貼付けてください。ただし、壁面等の状況により貼付けできない場合は輪ゴムで止めておくだけでも一定の効果があります。
- ・ポリ袋がしわになっている部分や、警報器を引掛けている部分に特に注意し、ポリ袋と壁面の間に隙間ができないようにしてください。
- ・接着テープは壁面の状況に応じて、接着しやすく、また剥がすときに壁面等を傷めないようにしてください。

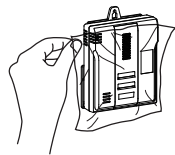
ポリ袋

- ・ポリプロピレン(PP)またはPP<表示>が好ましいですが、ポリエチレンでも一定の効果があります。
- ・大きさは、30cm×40cm程度が適当です。

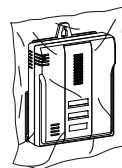
警告

●噴霧が終わり、換気した後、忘れずにポリ袋を取除いてください。

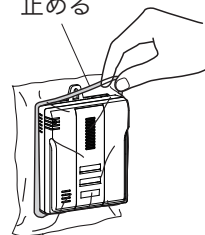
取除く



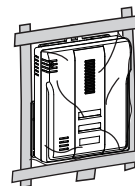
ポリ袋を前面から覆い被せる



輪ゴム3本で止める



接着テープで周囲を貼る



⚠ 警告	●噴霧後、21ページの取付け方法に従い、警報器を元の位置に戻してください。	
⚠ 注意	●警報器の壁面からの取外し、取付け、あるいは壁面の警報器へのポリ袋の取付け、取外しは高いところでの作業になりますので、しっかりした踏み台などをお使いの上、転落、転倒、落下に十分注意して行ってください。	禁止 
	●警報器は、強く引っ張ると取付けている木ネジまたは石こうボード取付用アタッチメントが抜けたり、警報器が外れたりして、落下する恐れがあります。	禁止 
お願い	●警報器への影響を少なくするため、部屋の広さに応じた容量の噴霧式殺虫剤をご使用ください。また、警報器の真下での噴霧は避けてください。 ●ポリ袋で覆っても次のような場合は警報器が発報することがあります。事前に住宅管理者やご近所の方に殺虫剤の使用を、連絡しておいてください。 ・ポリ袋と壁面の間に隙間がある場合。また、ポリ袋に破れや穴がある場合。 ・部屋の広さに比べて極端に大きな容量の噴霧式殺虫剤を使用した場合。	

13. 警報器のお手入れ方法

1. 警報器を取外してください。(取外し方法は21ページを参照ください)
2. 警報器及び取付け部付近の壁面の汚れをふき取ってください。
3. お手入れが終わりましたら警報器を取付けてください。(取付け方法は21ページを参照ください)

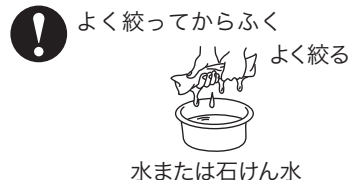
⚠ 注意

- お手入れは高所作業となり、転倒・落下などの危険があります。安全な足場を確保して作業してください。
- 警報器を落下させるとケガをしたり、他の物品を破損する恐れがあります。



お願い

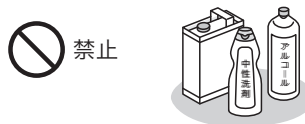
- お手入れをされる場合は、布を水または石けん水に浸し、よく絞ってから汚れをふき取ってください。
- 火災検知部にホコリやくもの巣がつかますと、検知しにくくなります。火災検知部にホコリが入らないように注意してホコリを除去してください。



- お手入れのとき、警報器の内部に水が浸入しないように注意してください。



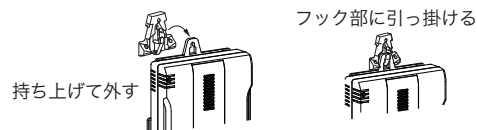
- 警報器のお手入れには中性洗剤、塩素系漂白剤、ベンジン、シンナー及びアルコールは使わないでください。中性洗剤等を使ったときは、警報器本体の表面に傷がついたり、発報が止まらないことがあります。



■ 14. 警報器の取外し・取付け方法

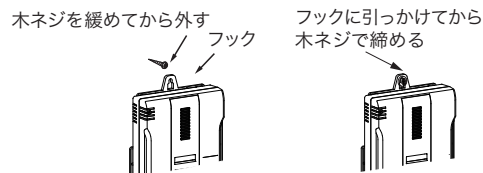
〈アタッチメント設置の場合〉

- ・取外し方
警報器をアタッチメントのフック部から持ち上げて外してください。
- ・取付け方
警報器をアタッチメントのフック部に引っ掛けてください。



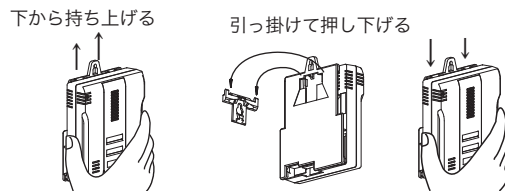
〈木ネジ設置の場合〉

- ・取外し方
木ネジを緩めて警報器を外してください。
- ・取付け方
警報器を木ネジに引っ掛けて木ネジを締め付け、警報器を固定してください。



〈旧モデル品のアタッチメント設置の場合〉

- ・取外し方
警報器を下から上に持ち上げて外してください。
- ・取付け方
警報器をアタッチメントのフック部に引っ掛け、押し下げてください。



⚠ 警告

- 警報器の取付け、取外し時には、警報器を落とさないよう注意してください。センサーの断線等で正常に作動しない恐れがあります。
- 警報器の取付け、取外しは高いところでの作業になりますので、しっかりした踏み台などをお使いの上、転落、転落、転倒、落下に十分注意して行ってください。

ご使用になる皆さまへ

■ 15.アフターサービス

お願い

- この警報器は、5年間の無償保証つきです。この取扱説明書に書かれている内容を守っていただいた上で、警報器が正しく動作しないことが判明した場合には無償でお取替えいたします。ただし、保証書裏面記載の保証の適用除外の項目に該当する場合はこの限りではありません。保証書をご参照ください。
- この警報器の交換期限は、お取付後10年間です。交換期限とは警報器の所定の性能を維持できる期限であり、10年を経過したものは、規定の警報ガス濃度で発報しないなど誤作動の恐れがありますので、ぜひ新しい警報器とお取替えください。
- 保証書に取付け年月および販売店名の記入のないものは無効となることがありますので、お取付け時にご確認ください。
- 保証を受けられる場合は保証書のご提示が必要です。保証書は大切に保管してください。
- アフターサービスについて、ご不明な点がございましたらお買い求めの販売店にご連絡ください。
- 引越しやお部屋の模様替えなどで警報器を移動される場合は、販売店までご連絡ください。

個人情報保護法に関する対応について

- 警報器に関するお客さまの個人情報は、上記の交換期限経過のおしらせを行うほか製品の品質向上のための修理点検記録収集やアフターサービス全般のために使用し、それ以外の目的に使用することはありません。

■ 16.廃棄について

交換期限が過ぎた警報器の処理について

〈リース品〉

交換期限が過ぎた警報器は、販売店にて回収いたします。

〈お買い上げ品〉

本体と電池を分別して廃棄するようお願いいたします。

※この製品に使用している電池は、「一次電池(リチウム電池)」ですので、一般の不燃ゴミとして廃棄できますが、廃棄方法は各自治体の指示に従ってください。

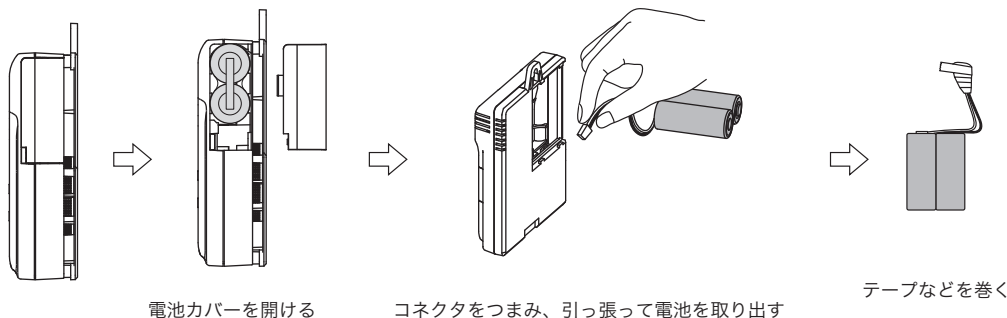
本体と電池を分別する場合は、本体裏の電池カバーを開け、電池を取り出してください。

電池のコネクタはショートしないようにテープなどを巻いてください。

不明な点はお買い求めの販売店にご連絡ください。



ご使用になる皆さまへ



■施工される方へ

■ 17.施工される方へのお願い

⚠警告

- 本取扱説明書を熟読の上、指定された方法を遵守して取付けを行ってください。
また、火災連動機能を使用する場合は、連動する機器の取扱説明書及び設置工事説明書に基づいて接続してください。
- 警報器を設置する前に、警報器の種類、形式等が指定を受けたものであることを確認するとともに、設置場所の選定についてはお客さまとよく相談して決めてください。
- この警報器は、設置前は、電源が切れています。必ず電源を入れてください。
電源を入れないと、火災またはCOが発生しても検知せず発報しません。
※詳細は33ページを参照ください。
- お客さまへ引き渡す際には、必ずお客さま立会いのもとで取扱説明書記載の警報停止スイッチによる点検を実施してください。なお、作動不良の場合は交換してください。
取付け・点検終了後に“22.お客さまへのご説明内容”“23.お客さまへの周知事項”をお客さまに説明してください。※詳細は41ページを参照ください。



必ず行う

⚠注意

- 警報器には、落下等の強い衝撃を与えないように、取扱いには注意してください。
- 交換期限を本体正面の交換期限シールに、お取付日から10年後の西暦年月を記入してください。
- 交換期限を経過して交換した警報器の廃棄処理について
 - ・一般廃棄物として処理を行わないで、産業廃棄物として処理してください。
 - 一般廃棄物として焼却処理した場合、有毒ガスが発生する恐れがある材料が本製品には含まれています。



必ず行う

■ 18.取付け前の確認

⚠ 警告

- この警報器は、取付け前は電源が切れています。必ず電源を入れてください。
電源を入れないと火災またはCOが発生しても検知せず、発報しません。



必ず行う

1.交換期限の記入

(1)交換期限シール

お取付け日から10年後(西暦)の同月を記入してください。
リースの場合は、交換期限シールの上に取替予定シールを貼付のうえ、同シールに
お取付け日から10年後の同日を記入してください。



必ず行う

(2)保証書

お取付け年月日を記入してください。保証期間はお取付け年月日から5年(お取付け
年月日から5年後の前日まで)となります。
ただし、リースの場合は保証書をお客さまにお渡しすることなくガス事業者に送付
してください。



必ず行う

施工される方へ

■ 19.取付位置の確認

取付位置を決めるときには、次のことをよく確認してください。

⚠ 注意

● 警報器の取付けは、安定した台に乗って作業を行ってください。

⚠ 必ず行う

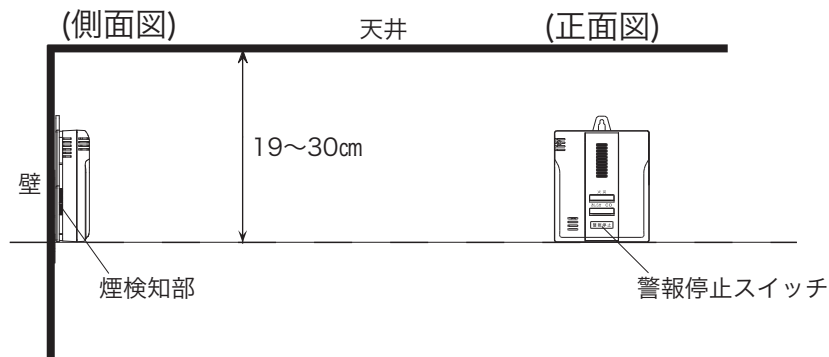
● 下記以外の取付け位置では、煙が十分に火災検知部に届かず煙を効果的に検知しない恐れがあります。正しい位置に取付けてください。

⚠ 必ず行う

● 取付位置を決める

警報器の下部が壁面の天井面下19cmから30cmまでの範囲に取付けてください。

- ・ 警報器の警報停止スイッチが操作しやすい位置に取付けてください。
- ・ 警報器の上下の向きに注意してください。警報停止スイッチが下になる方向に取付けてください。
- ・ 設置場所の選定については、お客さまとよく相談して決めてください。



施工される方へ

⚠ 注意

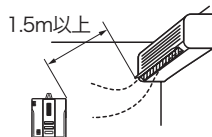
次のような取付け方をされていますと、発報の遅れや誤報、故障などの原因になることがあります。

- エアコンなどの空気の吹き出し口の近く
(1.5m以上離してください)



禁止

発報が遅れたり、
検知できないことが
あります。

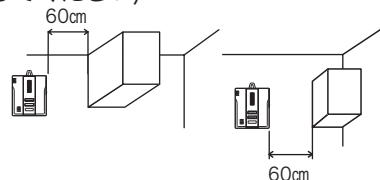


- たれ壁やはりの近く
(60cm以上離してください)



禁止

発報が遅れたり、
検知できないことが
あります。

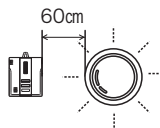


- 照明器具の近く
(60cm以上離してください)
- 日光のような強い光が当たる場所



禁止

発報が遅れたり、検知できない
ことがあります。

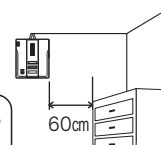


- タンスなど家具の近く
(60cm以上離してください)



禁止

発報が遅れたり、検知できない
ことがあります。



- 火災以外の排気、湯気、油煙及び
アルコール蒸気が直接かかるところ、
車庫など



禁止

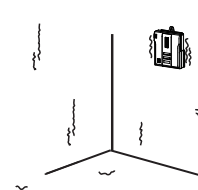
センサーの寿命が短くなっ
たり、誤報の原因になります。



- 振動、衝撃の激しいところ



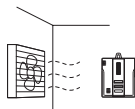
センサー故障の原因
になります。



施工される方へ

⚠ 注意

●換気口の近く

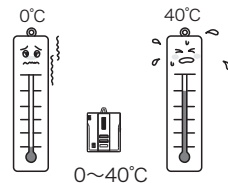


ホコリなどが煙検知部から入り、正常に検知しない恐れがあります。

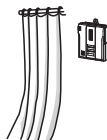
●温度が0℃～40℃の範囲をこえるところ



警報器としての機能を果たしません。誤動作の原因になります。



●カーテンウォールなどで仕切られるところ



発報が遅れます。

●屋外



屋外用ではありません。

●浴室や水のかかる場所や水滴のつくところ

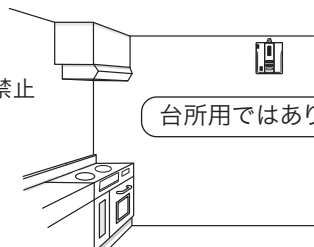


電氣的故障の原因になります。

●台所



台所用ではありません。



施工される方へ

■ 20.取付方法

お願い

1. 付属品の確認
部品イラストや図などを参照して、付属品名、個数、用途などを確認してください。
2. 取付位置の確認
 - (1) 取付位置の壁面の材質、強度を確認し、土壁、強度の弱い合板等には取付けないでください。
 - (2) 壁が石こうボードの場合は30ページを参照して石こうボード取付用アタッチメントを使用してください。

■ 付属品

引きひも(1個)



アタッチメント(1個)



木ネジ
長さ16mm(1本)



(ピン3本付)

⚠ 注意

- 警報器の取付け時には、警報器を落とさないよう注意してください。

センサーの断線等で正常に作動しない恐れがあります。

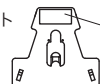
施工される方へ

3. 警報器の取付

〈石こうボードへ取付ける場合〉

- (1) アタッチメント裏面の両面テープの剥離紙を剥がしてください。
- (2) 壁面にアタッチメントを押し当て、アタッチメントの石こうボード用ピン①を差し込んでください。その際、市販の石こうボード用のピン差し込み工具またはドライバーの柄の堅いところなどで石こうボード用ピンの頭を押しつけて根元まで差し込んでください。
- (3) 警報器をアタッチメントのフック部に引っ掛けてください。警報器が傾かない位置で、アタッチメントの左右の石こうボード用ピン②を差し込み固定してください。

アタッチメント



両面テープ



石こうボード用ピン①



石こうボード用ピン②



⚠ 注意

- ⚠ ・ ピンを指に刺さないよう取扱いには十分注意願います。
- ⚠ ・ 取付強度保持のため、ピンは根元まで差し込んでください。
- ⚠ ・ 万一ピンがゆるんだ場合には、取付位置を少しずらしてピンを取付け直してください。

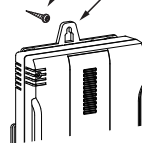
〈石こうボード以外の壁へ取付ける場合〉

壁がコンクリートの場合は、振動ドリルでドリリングのうえ、カールプラグ(市販品)を打ち込み、木ネジを使用してください。

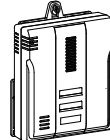
- (1) 木ネジを壁面の途中までネジ込みます。
- (2) 警報器のフックを木ネジに引っ掛けます。
- (3) 木ネジを締め付け、警報器を固定します。

木ネジ
(長さ16mm)

フック



フックに引っかけてから
木ネジで締める



〈旧モデル品のアタッチメントへ取付ける場合〉

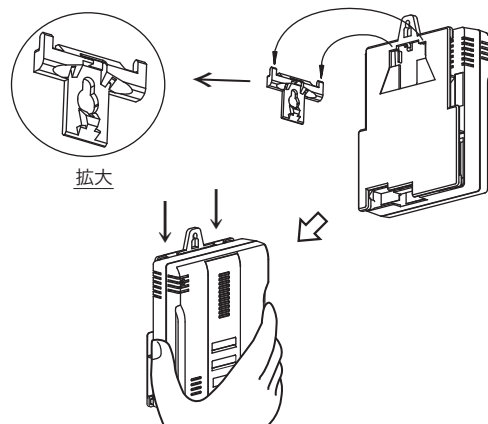
既存品である旧モデル品が取付けられていたアタッチメントに取り付けることができます。

・取付け方法

警報器をアタッチメントのフック部に引っ掛け、押し下げてください。

・取外し方法

警報器を下から上に持ち上げてください。



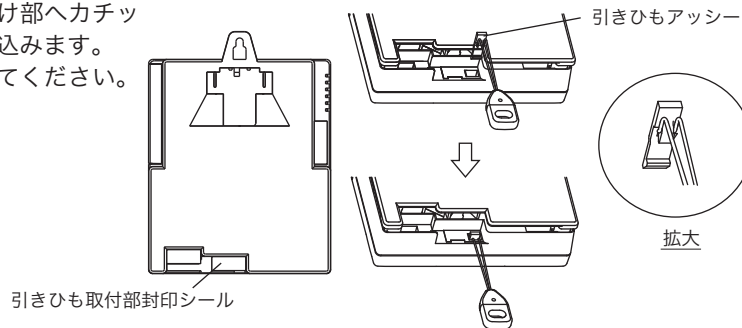
〈引きひもを取付ける場合〉

警報器に引きひもを取付け、警報停止スイッチを操作することができます。

(1) 封印シールを剥がします。

(2) 引きひもアッシーを本体の取付け部へカチッと音がするまでしっかりと差し込みます。

(3) 引っ張って抜けない事を確認してください。



施工される方へ

〈他の住宅用火災警報器と接続する場合の注意点及び点検方法〉

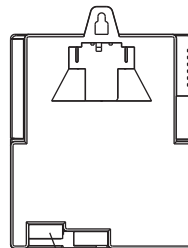
この警報器は接続したいいずれかの警報器が作動すると、接続した全ての警報器を作動させることができる火災連動機能を備えています。

⚠注意

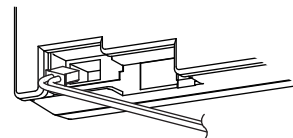
- ❗ ・火災連動機能を使用する場合は、ガス事業者の仕様に合う火災連動機能を持った警報器を使用してください。
- ❗ ・接続する場合は、連動する警報器の取扱説明書、工事説明書に基づいて接続を行ってください。
- ❗ ・接続には接続用リード線(別売品)が必要です。
- ❗ ・接続する台数は連動元を含め、最大10台までにしてください。
- ❗ ・接続後、連動点検を行ってください。

●接続方法

外部出力コネクタ封印シールを外し、別売品の接続リード線を本体のコネクタへしっかりと差し込んでください。



外部出力コネクタ封印シール



赤(+) 灰(-)
接続用リード線 (B-SEN)
(別売品)

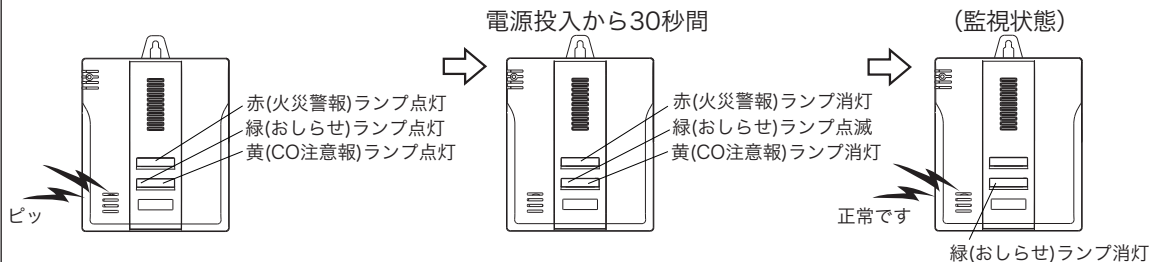
■ 21. 取付け後の点検(お客さま立会いのもと実施)

この警報器は、通電開始後自動でセンサを含めた内部回路が正常であることを確認する自動初期点検機能を有しています。「自動初期点検機能の確認」を行ってください。続けて「ランプと音声の確認」を行ってください。また、他の住宅用火災警報器との連動がある場合は「連動点検」も行ってください。
通常「作動点検」は不要ですが、お客さまから作動確認の要望があった場合は、「作動点検」を行なってください。

自動初期点検機能の確認

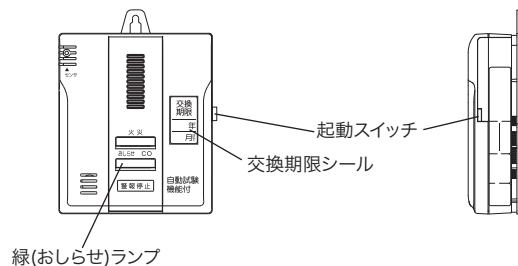
警報器の電源投入

(警報器の起動スイッチの突起を押し込む)



施工される方へ

1. 起動スイッチの突起を押し込んでください。
「ピッ」と鳴り、全てのランプが一瞬点灯します。
その後、緑(おしらせ)ランプが点滅します。
 2. 約30秒お待ちください。
約30秒は緑(おしらせ)ランプが点滅しています。
約30秒後に「正常です」と鳴り全てのランプが一瞬点灯し、監視状態に入ります。
- ※万一、異常があれば、「ピッピッピッ 警報器故障です」と鳴り、緑(おしらせ)ランプが10秒周期で点滅します。
警報器の故障が考えられますので、警報器の交換をお願いします。



ランプと音声の確認

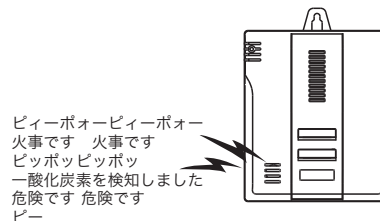
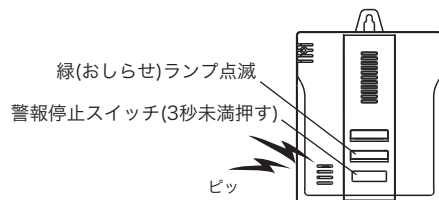
警報停止スイッチを操作することによってランプと音声の確認を行うことができます。

⚠注意

- CO注意報や火災連動時の作動点検は、37、38、39ページにならって実施してください。
- 警報停止スイッチを過大な力で押さないでください。
破損する場合があります。

次の手順で点検してください。

- 下記の点検は警報器の電源投入(起動スイッチ押し込み)後4分以内に行ってください。
- 1.警報停止スイッチを押して「ピッ」と鳴ったら手を離してください。
36ページ表のステップで音声とランプ表示を行います。
各音声を発した後、「ピー」と鳴って終了します。
 - 2.すぐに音声を止めたい場合、警報停止スイッチを再度約1秒間押すと(ピーと鳴った後)ランプの点滅は停止します。
そのままでも約20秒経過すれば、終了します。



施工される方へ

ステップ	音声内容	ランプ		
		赤(火災警報)	黄(CO注意報)	緑(おしらせ)
1	ピーポーピーポー 火事です 火事です	点滅	消灯	消灯
2	ピッポッ ピッポッ 一酸化炭素を検知しました 危険です 危険です	消灯	点滅	消灯
3	ピー	消灯	消灯	消灯

- ・各ステップの音声回数は1回ずつです。
 - ・各ステップは約8秒間で切り替わります。
 - ・この点検は監視中に行うことができます。
(電源を入れてから約30秒間緑(おしらせ)ランプが点滅している間は、この点検はできません)
 - ・確認開始から約20秒後に「ピー」という音が鳴り、終了します。
- ※確認作動中に警報停止スイッチを約1秒間押すと、「ピー」と鳴り動作が中止します。
- ※電源を入れてから4分以上経過した後、この点検を実施した場合、上記音声ではなく、「正常です」と鳴ります。

連動点検

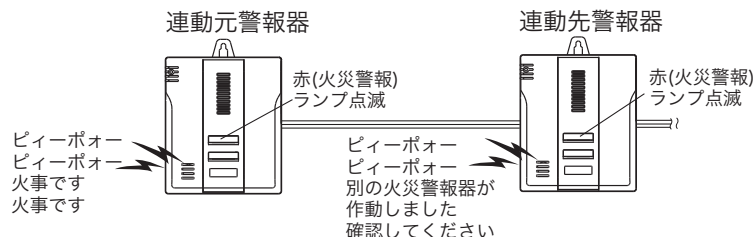
●火災連動時の動作

連動元

警報停止スイッチを3秒以上6秒未満操作してください。「ピッ」「ピッピッ」と鳴ったらスイッチから手を離してください。赤(火災警報)ランプが点滅し「ピーポーピーポー 火事です 火事です」と1回警報するとともに連動信号を60秒間出力します。

連動先

赤(火災警報)ランプが点滅し「ピーポーピーポー 別の火災警報器が作動しました 確認してください」と60秒間警報します。



※連動元警報器の警報停止スイッチを再度約1秒間操作すると(ピーと鳴ったあと)、赤(火災警報)ランプの点滅及び連動出力は停止します。そのままでも60秒経過すれば、赤(火災警報)ランプの点滅及び連動出力は停止します。

作動点検の方法

お願い

●CO作動点検時には、ガス採取器(別売品)とライター・ガスコンロなど検知対象ガスの炎からガスを採取できるものを用意してください。

従来のアルコールを主成分とした点検ガス及びライター式の点検ガスは使用しないでください。
また、ガスライターのガスを直接かけての点検もしないでください。
センサーに異常が生じたり、発報時間が長くなる可能性があります。



施工される方へ

CO作動点検の方法

起動スイッチ押し込みによる電源投入後、30秒～4分の間を点検モードとし、CO作動点検をしやすいしています。

作動点検は、この間に実施してください。設置後に再度点検モードを起動する場合は、警報停止スイッチを約6秒以上押し「ピッピッピッ」音鳴動後、スイッチを離してください。約30秒間の自動初期点検が始まり、その後点検モードになります。

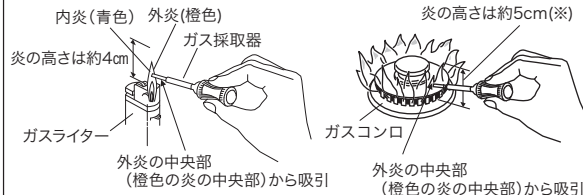
※注入ガス濃度が低い場合は、警報に至らないこともあります。

〈ガス採取方法〉

1. 周囲に引火物などが無いことを確認してからガスライター、またはガスコンロを点火し、炎の高さをガスライターでは約4cm、ガスコンロでは約5cmに調整します。炎が小さいと点検ガスを採取しにくくなります。

※ガスコンロの種類により、炎の高さを5cmに調整できない(5cm未満になってしまう)場合はコンロの火力を最大にしてください。

2. ガス採取器を圧縮し、先端を炎の外炎の中心部(橙色の炎の中心部)へ持っていきます。
3. 約2秒程度かけて、炎の中からガス成分(点検ガス)をゆっくり吸引します。
終わりましたら速やかにガス採取器をガスライターまたはガスコンロの炎から離して、炎を消してください。
4. ガス採取管の先端は熱くなっているため、そのまま警報器に押し当てると警報器のケースを溶かしたり傷がついたりします。ガスを採取後、必ず30秒以上冷ましてください。(熱いまま警報器に当てないでください。警報器の故障・変形の原因となります)



⚠ 注意

ガス採取器が破損するので、長時間加熱しないでください。

炎から取り出した直後のガス採取器の先端は熱くなっていますので注意してください。



先端部分は熱くなるのでヤケドに注意

⚠ 警告

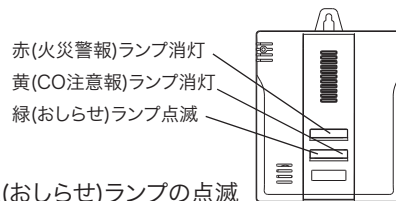
採取したガスは作動点検以外には使用しないでください。



〈点検〉

1. ガスを採取します。
2. 起動スイッチの突起を押し込みます。(警報器使用中の場合は警報停止スイッチを約6秒以上押して「ピッピッピッ」音鳴動後にスイッチを離してください)
緑(おしらせ)ランプが点滅します。
3. 緑(おしらせ)ランプの点滅が終了し、「正常です」と鳴った後、ガス採取器の先端を警報器の点検口にしっかり押し当てて、容器を圧縮し、採取したガスを約1秒程度で注入します。
4. ガスを注入してから20秒以内に、発報することを確認してください。
 - ・発報はCO注意報となりますので黄(CO注意報)ランプが点滅し、CO注意報音「ピッポッピッポッ 一酸化炭素を検知しました 危険です 危険です」と発報します。
 - ・ガスの濃度が低いと発報しない場合がありますのでその時は、再度ガスを採取し、作動点検を行ってください。4分以上経過してしまった場合は、再度2の操作を行い、もう一度作動点検を行ってください。
5. ガス濃度が規定値以下になると黄(CO注意報)ランプは消灯し、発報が止まります。

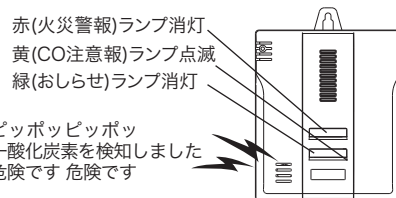
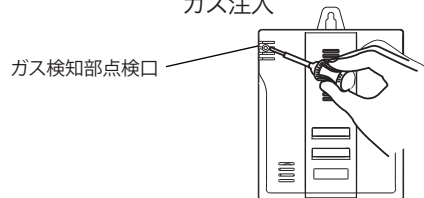
上記2の操作後、約4分間は、COの検出周期を短くして点検をしやすくしています。
この約4分間で点検を行ってください。



緑(おしらせ)ランプの点滅が終了し「正常です」と鳴ったら



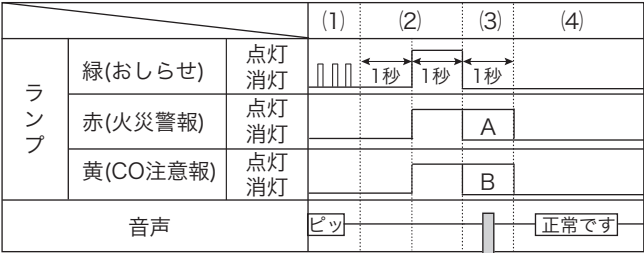
ガス注入



施工される方へ

鳴動履歴の確認

- 警報器が鳴動した履歴がある場合、下記の方法で過去10日以内に発生した発報の種類を確認することができます。
- (1)警報停止スイッチを押し、「ピッ」と鳴ったらスイッチを離します。緑(おしらせ)ランプが点滅します。
 - (2)ランプが全消灯した後、全てのランプが点灯します。
 - (3)鳴動の履歴がある場合は、過去10日以内に発報したランプがさらに約1秒間点灯します。(タイミングチャートのA,Bを参照ください)。
 - (4)「正常です」と鳴り、終了します。
- ※鳴動の履歴が無い場合は、ランプ1秒点灯は動作しません。



鳴動履歴表示により最後に発生した発報のランプが1秒点灯します。

	鳴動履歴	赤(火災警報)ランプ	黄(CO注意報)ランプ
A	火災警報	1秒点灯(計2秒)	消灯
B	CO注意報	消灯	1秒点灯(計2秒)
一	鳴動履歴なし	一	一

- 上記のランプ表示動作は、最新1回のみの鳴動履歴をおしらせしているものです。
- 鳴動履歴は鳴動開始から約10日間経過した場合、消去されます。

■ 22.お客さまへのご説明内容

●お客さま立会いのもとでの点検が終わったら必ず以下の説明を行い、ご理解を得てください。

1. 発報動作と自動初期点検結果の説明。
作動点検をした場合は、作動点検結果の説明。
2. 保証書・取扱説明書を必ず読んでいただくことと、保管のお願い。
3. 取扱説明書に基づく主要な機能の説明と確認。
 - (1)火災警報の内容(赤(火災警報)ランプ点滅、音声合成音の確認)と警報時にとるべき措置の説明。
(11、12ページ参照)
 - (2)CO注意報の内容(黄(CO注意報)ランプ点滅、音声合成音の確認)と発報時にとるべき措置の説明。
(11、13ページ参照)
 - (3)火災、COの同時発報と発報時にとるべき措置の説明。(12ページ参照)
 - (4)部屋にいないときにCO注意報が鳴った場合にとるべき措置の説明。(14ページ参照)
 - (5)誤報が発生する場合。(9ページ参照)
 - (6)警報器に異常が発生した場合(緑(おしらせ)ランプが点滅している場合)と、とるべき措置の説明。
(16ページ参照)
 - (7)警報停止スイッチの操作説明。
 - (8)警報器の定期点検方法の説明。(10ページ参照)

■ 23.お客さまへの周知事項

お願い

- お客さまに次の事項をご説明のうえ、ご理解を得てください。
1. 警報器の交換期限(本体貼付のシールを明示)と保証期間。
 2. 警報器の移設禁止(移設依頼の連絡先)。
 3. 警報器の分解禁止。
 4. 引越時の措置。
 5. 故障・異常時の連絡先。



必ず行う

販
売
店

矢崎エナジーシステム株式会社

発売元
及び
製造元

発売元(本社)

〒108-0075 東京都港区港南一丁目8番15号Wビル7F

製造元(天竜工場)

〒431-3393 静岡県浜松市天竜区二俣町南鹿島23番地 TEL053-925-4111

(お問い合わせ先)ガス機器事業部

〒431-3393 静岡県浜松市天竜区二俣町南鹿島23番地 TEL053-925-4511

この取扱説明書は、再生紙を使用しています。